

# 防染糊の使い方

染める前の  
アドバイス！

浸け染め用の防染糊です。  
生地に糊を付けて染めるだけで簡単に白抜き柄が作れます。  
糊は水に浸けておくだけで簡単に除去できます。成分も排水に流れても安全な成分で作っています。

生地は必ず下染めした生地を使ってください。  
染め場と白場がはっきりと分かれることで防染の良さが楽しめます。

## 1

生地全体を濡らして下さい。脱水又はタオルなどでよく水気を切って軽く湿った状態にしてください。

◎濡れすぎに注意。水気がありすぎると糊が滲んで柄がぼやけてしまいます。  
◎手ぬぐいなどの浸透性のある生地でしたら乾燥している状態でも大丈夫です。

## 2

糊を付けます。

◎型紙の場合・ヘラで型紙の上から彫った個所を埋めるような感じで糊置きしてください。

◎手書き場合・平刷毛などで塗るように書いてください。  
何度か同じ場所にたっぶり付けて書いてください。

## 3

糊を付けた部分を完全乾燥させてください。

## 4

乾燥した生地を水に30分ほど浸けて糊を溶かします。  
すすいで糊を取りのぞいてください。

◎付けた糊を取るの？と不思議に思われると思いますが、古色の美の糊は物理的な効果ではなく、マイナスのイオンである糊をつけることで染料と反発しあうような仕組みで作られています。ご安心ください。  
◎染める染料はベンガラがオススメです。藍錠は薄く色が入り込むことにご注意です。

## 5

新しい綺麗な水を用意して、染料を溶いて染めてください。

◎何度も染め重ねると糊の部分も染まる場合がありますので注意。  
濃いめの染料で1〜2回で染め上げるとベスト。

◎乾燥後、糊が残って生地に固さが出ている場合はもう一度洗うと取り除くことができます。



向いている生地・向いていない生地

防染に向いている生地は薄手・中薄手の生地です。精錬済みの浸透しやすい生地をお使いください。向いていない生地は帆布など厚手の生地です。未精錬の生地も糊を弾いてしまいます。



保存について

余った糊はできるだけ空気に触れないように密閉して涼しい場所または冷蔵庫で保存してください。夏場や直射日光があたる高温での保管は粘度の低下品質劣化の原因になります。

商品名：防染糊（浸け染め用）

内容：水、ベントナイト  
セスキ炭酸ソーダ  
増粘剤

（カルボシキメチルセルロース  
植物性／食品用）



「製造・販売者」

古色の美® ナカジマ株式会社

大阪府羽曳野市古市3丁目6-21

TEL 072-957-7755

<http://www.kosyokunobi.com>